

令和一年十二月号

足尾銅山跡を歩く

佐怒賀正美

晩秋を群れて憑きくるてんと虫

はげ山の晩秋アノニマスの威容

荒地にてんてん毒きのこ鹿の糞

せせらぎの際まではげ山の晩秋

極楽へ繋がりしかや坑道まぶ冷ゆる

令和一年十一月号

気根

佐怒賀正美

野分去り沼杉気根みんな無事

閻魔蟋蟀只今しもべ募集中

寝不足の蟋蟀らしい乾きごろゑ

水澄むや老母の編み直す記憶

世を恋ふる純正河馬よ十三夜

令和一年十月号

石榴

佐怒賀正美

援たすくるか断つか龍淵いにか瞋りぬ

天声も人語も石榴よりはじけ

台風や東都べとついでいろは彩ふ

をちこちの柿が応ふる風の凱歌

追悼・金子兜太百年

耳にこほろぎ背肉にすこし青鮫

令和一年九月号

茄子の馬

佐怒賀正美

茄子の馬作るに茄子の器量見る
此に都ありけり鬼蜻蜒つるむ
身ぬちなる熱中症の鬼冷やす
爽やかや子の甘食は活火山
銀漢の扉めくなり八束句碑

令和一年七・八月号

楊梅

佐怒賀正美

三面記事のごとく蠮螋生じけ
出藍のほまれの黴と思ひけり
さくらんぼ畑に赤子熟睡せる
蛇の子や古墳の上の安らぎに

志賀島神社

楊梅を散りばめ安曇磯良覚む

あづみの

いそ

ら

※伝承にあらわれる古代の海の精霊。貝や藻や虫がとりついた容貌で、海人を統率した安曇氏の祖とされる。

令和一年六月号

水

佐怒賀正美

探し出す青葉の中の未知なる音
紫蘭までしづかな水の辿りつく
夏の虫こまごま生まれつぎつぎ来
原人が覗く青葉の令和かな
納骨の一族に遭ふ青葉谷

令和一年五月号

黒鍵

佐怒賀正美

花の日、義父・橋本喜典急逝 九十歳

世を超えて去るに言志や花月夜

とはの世のとはの詩魂や朝ざくら

ことの葉の魂かげ昇り花に浮く

歌に仕へ辞世いくたび花の夜に

春のレクイエム黒鍵もよく叩き

平成三十一年四月号

花の山

佐怒賀正美

紙吹雪 コンフェッティ 風船 売り 子弾 み来たり

朝日子の思念ひろがり 桃の花

機関車と古墳を入れて 花の山

ゆつくりと蘆に隠るる 春の鷺

奇想図の鬼と童子や 風船逃げた

平成三十一年三月号

春炬燵

佐怒賀正美

氷る夜の愛国といふ魔性かな
春炬燵銀河のツボのやうなもの
伸びるストロー曲るストロー木の芽風
若き日に嘔吐せし野を焼きすすむ
子が育ち子を産み辛夷芽吹きけり

平成三十一年一・二月号

聖夜の灯

佐怒賀正美

木枯や「地酒」の幡が左馬
歌ひだす前の動きのサンタかな
トレツドミル降りて明日はサンタ役
天上の継ぎ目なめらかサンタ来よ
自販機にふかひれスーぷ聖夜の灯